

講習会の報告

子育てサポート講習会 「支援の必要な子どもの理解と関わり方」 9月14日



講師：山村亮祐さん
(市療育センター主任
臨床心理士・公認心理師)

ヒトの多様性つまり、感覚の違い、感じ方の違い、行動の違い、得意なこと、苦手なことなどその他色々な違いがあるということを理解した上で、発達の個人差と特性について学びました。そして、対人関係が苦手であったり、こだわりやすさがあったり、感覚の偏り、運動の不器用さ等、その人の特性にばらつきがあると再認識しました。

社会生活に大きな困難がある状態が障害であり、生活しやすくするための特別な配慮、つまり、特性に合わせた、力を発揮しやすい環境作りをしていくことが支援だと理解できました。

(以下、内容のままを紹介)

最後に身近な支援者として知ってほしいこととして

- ・子どもや保護者の味方になって
- ・ねざらいや、相手の考え・感じ方を尊重する
- ・ほどよいお節介(押し売りは逆効果)
- ・日常の中の上手くいっていることを探すなど

解決思考アプローチとして

- ・上手くいっているなら変えようとするな
- ・上手くいったなら、もう一度それをくりかえせ
- ・上手くいかなかったら、何か違うことをせよ

と、今回の講習会では、支援の必要の人(子ども)への向き合い方や、関わるための理解の仕方を学びました。

感想

- ・特性、障害について改めて理解を深めることができました。子どもの良いところ、できるところに目を向けて認めてあげられると良いと思いました。
- ・生活しづらさを感じたら、見方を変えることによって、困っていることを解決するきっかけになることを学びました。



子育てサポート講習会 「子どもの事故予防と救急法」 10月12日



「事故予防」 講師：村上奈美佳さん(健康増進課保健師)
事故のために受診した保護者から聞く言葉として紹介されたのは

「ちょっと目を離した隙に・・・」

「出かけようとバタバタしていたら・・・」

「まだ動けないはずなのに・・・」 などでした。

子どもは発達と共に色々なことが出来るようになる一方、さまざまな事故に遭う恐れがあります。そのため、危険を知って予防することが必要とのお話でした。さらに、具体的に乳幼児に起こりやすい事故の例とその対策法を学びました。



「救急法」 講師：津山圏域消防組合救急救命士

コロナ禍の中での心肺蘇生法を学びました。人工呼吸は行わず、胸骨圧迫とAEDを使用して救助するとのことで、成人だけでなく乳幼児の人形も使い、ひとりひとり実技の指導を受けました。参加者の皆さんは質問も交えながら熱心に受講されました。

感想

- ・子どもの事故は、周りの大人が、事故が起きる前に予測して気をつけることが大切だと思いました。
- ・他の参加者の実際の経験が聞けたのが大変良かったです。
- ・年1回の講習なので、忘れていたことも多く、改めて学習することができてとても有益でした。



事故予防・救急法の講座は毎年開催しています
提供・両方会員の皆さんは5年に1回は必ず受けてください

